

「猪苗代湖5万年前誕生」



研究成果報告会について発表する塘教授

13日研究成果報告

塘教授らのプロジェクト

裏磐梯・猪苗代地域の自然環境保全についての研究に取り組む「磐梯朝日遷移プロジェクト」の代表を務める塘忠顕(つとあき)福島大共生システム理工学類教授は2日、同プロジェクトの4年間の研究成果を紹介する報告会を猪苗代町で13日に開くと発表した。猪苗代湖底の堆積物を分析した結果、猪苗代湖が5万年前に誕生し始めたことが判明したことや、五色沼が鮮やかな青色に見える理由と考えられる物質についての発表などが行われる。

2日開かれた大学の定例記者会見で発表した。同プロジェクトは、裏磐梯・猪苗代地域の自然環境や生物多様性を維持しながら、持続可能な形で人間が利用していくための方策を考えることを目的としている。

2012(平成24)年から本年度までの4年間、延べ16人の研究者が取り組んだ。研究成果報告会は13日

福島医大2教授最終講義

田勢氏、後藤氏

本年度で福島医大を定年退任する田勢長一郎救急医

午前9時から、猪苗代町体験交流館「学びいな」で開く。塘教授は研究成果をまとめた書籍を出版すること

最終講義する田勢教授



最終講義する後藤教授



療学講座教授(65)と後藤満一臓器再生外科学講座教授(65)の最終講義は2日、福島市の同大で行われた。田勢教授は「救急医療の

も紹介した。報告会についての問い合わせは塘教授(電話024・548・8197)へ。

緯を説明し、「効果を上げていくことが重要。人の命はお金では買えない」と話した。後藤教授は「外科医療における質の保証」をテーマに、臓器移植分野に励んだ自らの足跡などを紹介し、